

ICTに関連した健康行動を規定する要因分析

2015.10.15 卒論生 吉田長史

超高齢社会を迎えたわが国では、現在、生産年齢人口の減少、社会保障費の増大などの課題に直面しており、国民の健康維持・増進に向けた取り組みによる健康寿命の延伸実現を通じた課題解決が求められている。そうした社会情勢を受け、千葉市は昨年、スマートプラチナ社会構想の実現に向けた総務省の「ICT健康モデル（予防）の確立に向けた地方型地域活性化モデル等に関する実証」事業に参加した。この事業で行われたウェブ調査のデータを分析することで、保健行動誘因としての健康ポイント制、ICT（スマートフォンおよびそのアプリ）を用いた介入方法を考える。

保健行動を説明するモデルとして行動意図モデルを中心に統合された保健行動モデルの紹介を行う。開始段階として、決定のきっかけがあり、それによって、現在の行動、新しい行動に対する態度が決定される。その態度によって行動意図が喚起され、行動につながるというモデルである。このモデルでは説明しきれない行動があり、行動意図決定前の態度と行動意図には矛盾が生じる場合の行動である。たとえば、行動意図の前の要因が多いにも関わらず、行動していない場合および、行動意図の前の要因が少ないにも関わらず行動している場合である。こういった矛盾が生じる要因として、行動経済学的特性が関係しているのではないかという仮説を考える。

千葉市健康意識調査のデータの集計結果の紹介および今後の展望についても論じる。